

森林の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成14年10月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号TEL(0985)24-2071
<http://www.pref.miyazaki.jp/museum/> E-mail:museumso@miyazaki-nw.or.jp

文字をもたなかった日本は、約2,000年前の紀元前後から、古代朝鮮の影響を受けながら中国からの文字（漢字）を受け入れました。文字が本格的に国内政治に使われるようになったのは5世紀で、ヤマトの王が中国から「倭国王」としての地位を認められたころです。そして、8世紀になると歴史書である『古事記』や『日本書紀』、歌集である『万葉集』、さらに正倉院文書がつくられます。古代の日本では、文字そのものが権威を示すあるいは呪力を持つものとして、大きな社会的役割を果たしていたと考えられています。

展覧会では、国立歴史民俗博物館の企画をもとに、国指定重要文化財の「児湯郡印」「山辺郡印」「貨泉」をはじめ、全国各地の木簡、漆紙文書、墨書き土器などの文字資料、文房具などを展示することにより、古代の人々の文字の書き方や使い方を紹介します。さらに、正倉院で仏教の經典を写す仕事をしていた写経生の生活、鑑真・道鏡らの書を紹介します。また、南九州（宮崎県、鹿児島県）の主な古代文字資料を一堂に集め、古代日本と南九州の文字世界を復元し、文字をつうじて古代社会の実像を描きます。



●現存する日本最古の戸籍である正倉院文書「筑前国嶋郡川辺里戸籍」大宝2(702)年
(筑前国嶋郡川辺里は現在の福岡県志摩町、複製)



●国指定重要文化財「児湯郡印」
(宮崎県西都市所蔵)

特別展 古代日本文字のある風景

—金印から正倉院文書まで—

平成十四年十月二十六日(土) ▶十一月八日(日)



●土器に人の顔が描かれた人面墨書き土器
(千葉県庄原遺跡出土)



●写経所につとめていた志比連麻呂が書いたといわれる戯画「大大論」(正倉院文書、複製)

休館日: 10/28, 11/5-11・18・25, 12/2

開館時間: 午前9時から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

観覧料: 大人500円(400円)/高大生300円(200円)
小中生200円(100円) * ()は20名以上の団体

主催: 宮崎県総合博物館、朝日新聞社

特別協力: 国立歴史民俗博物館

講演会

テーマ: 古代日本と文字

日 時: 平成14年11月3日(日) 午後1時30分~3時

場 所: 県民文化ホール(博物館西側)

講 師: 平川 南先生(国立歴史民俗博物館副館長)

入場料: 無料

博物館利用者の声

～博物館への質問より～

博物館には、県内外の皆さんからさまざまな問い合わせが寄せられます。最近寄せられた中から一例をあげてみましょう。

Q 古い板（棟札）に書かれた墨書きの年号が消えかかって、読めないのでですが読む方法はないでしょうか。

A 古文書、木簡（板に墨書きされた荷札や文書）、棟札、石塔（板碑・五輪塔などの供養塔）等に書かれた墨文字は、年月を経て薄くなり読みなくなっているものがほとんどです。まずは、水で軽く濡らしてみましょう。消えかけた文字が濃く浮き出ることがあります。もっと本格的な方法としては、カメラに赤外線フィルムを入れて撮影するか、赤外線ビデオカメラで写してみる方法があります。人間の目には見えなくても、赤外線をとおして見える場合があります。

※赤外線ビデオカメラは「古代日本 文字のある風景」展で実演することにしています。



木書きが薄くのこる「木簡」



「真方」の墨書きがのこる須恵器坏

博物館講座紹介

化石のレプリカづくりに熱中！

7月13日に「化石のレプリカをつくろう」の講座を行いました。参加者は、小学校1年生から中学校1年生までの56名と保護者37名で、人数が多いので2回に分けて実施しました。まず、実物のアンモナイト化石や三葉虫化石に触り、手触りや重量感を感じもらいました。「ごつごつしている」「硬くて石みたい」「思ったより重い」などの感想がありました。その後、子どもたちは、アンモナイトと三葉虫のレプリカづくりを体験しました。シリコーンの型の中に樹脂を流し込んで型取りをし、それに色を付けました。色塗りができるだけ実物に近づけようと熱心に取り組み、子どもたち独自の作品を仕上げました。



収蔵資料紹介

ニホンカモシカ剥製標本

写真は、1歳前後、生後2日目、成獣のニホンカモシカの剥製標本です。成獣と生後2日目の標本は県北の日之影町見立、1歳前後の標本は県央の都農町尾鈴山で、事故死したものや保護された後に死亡したものです。この3体の標本を比較することで、ニホンカモシカの成長のようすを知ることができます。

宮崎県には推定2000頭のニホンカモシカが生息しています。ニホンカモシカは一般にブナ林に生息するのですが、宮崎県では照葉樹林にも生息し、綾町照葉大吊橋周辺の照葉樹林はニホンカモシカの分布の南限となっています。

宮崎県では平成14・15年度にニホンカモシカの特別調査を実施します。この調査によって、県内のニホンカモシカの生息状況が明らかになることが期待されています。



展示解説員の声

夏休みの期間中、博物館は連日とても賑わいました。

こども達に大人気の「びっくり大昆虫展」をはじめ化石や植物の標本づくりの講座、採集作品の名前を調べる会など夏休みならではの展覧会や講座が開かれたからです。そんな中、常設展に入られるお客様の多くが、時間をかけてじっくり展示をご覧下さるのも、また、嬉しいものです。博物館も学校完全週5日制を受けて、毎週土曜日が小中高生無料になりました。「クイズラリー」や「昔の遊び体験広場」など、楽しい催しを準備しておりますので、ぜひ遊びに来てください。

(永山淳子)



西都原資料館よい

明治時代の鬼の窟古墳

平成7年度からの発掘・復元によって、造られた当時の姿を取り戻した鬼の窟古墳。明治時代前半にイギリス人のウィリアム・ゴーランドが、西都原を訪れて、鬼の窟の大きさを調べ図面を書いています。そして、墳丘、周濠、外堤の完備した古墳で、日本で見たなかで、最も見事な例の一つであるとほめています。発掘された須恵器や古墳の模型が資料館に展示しておりますので、ぜひご覧ください。



鬼の窟石室内

【問い合わせ先：西都原資料館 Tel/Fax 0983-43-1354】

常設展示室探検 照葉樹林ジオラマシアター

1階展示室、宮崎の森コーナーの奥に照葉樹林ジオラマシアターがあります。このシアターは照葉樹林の夏の一日のようすを自然史展示室イメージキャラクターのムササビむーちゃんが案内してくれます。スクリーンには、動物や昆虫のいきいきとした生活が映し出され、ヒメボタルの点滅、マジックビジョンでのオニグモの巣づくり、シアターのまわりにある展示物との連動など、照葉樹林を立体的に紹介しています。日本を代表する宮崎の照葉樹林を心一ちゃんといっしょにたのしく探検してみよう！



オニグモの巣づくり

ヒメボタルの点滅

西都原古代生活体験館よい

人気爆発！
新講座

とんぼたま

「蜻蛉玉作り」毎月第1土曜日

古代人にならい、1200℃以上の炎をあやつって棒ガラスを溶かし、自分の玉を作ります。かなりの集中力と技術を必要としますが楽しいですよ。玉は、3~4時間たたないと触れる温度まで下がりませんので、午前中の来館がおすすめです。中学生以上の方のみ。



これからある講座

①11月3日(日) 西都古墳まつり「無料体験コーナー」

古代体験少年団員が簡単な笛作りをお手伝いします。

場所：ご陵墓前広場祭り会場 時間：10:30~14:30

*雨天時中止

②11月16日(土) 実験考古学「野焼き」

10月末までに作った土器を縄文人と同じ野焼きで焼く実験をします。

場所：西都原古代生活体験館 時間：10:00~15:00

参加費：300円 *雨天時は11月23日(土)に延期

③2月22日(土)・23日(日) 古代おもしろ講座「古代食パーティー」

ドングリ料理コンテスト・

創作古代食調理・試食会

ドングリ料理を出品しませんか？

詳しくは、体験館までお問い合わせください。



【問い合わせ先：西都原古代生活体験館

Tel 0983-43-5002 Fax 0983-43-5006】

宮崎の昔話

博物館の東側にある民家園旧黒木家住宅（国指定重要文化財）で、12月、1月を除く毎月第3土曜日に「宮崎の昔話」の公演を行っています。

毎回5～6話の県内各地で語り継がれてきた昔話を、宮崎県語りの部の会の会員の方々に語っていただいています。耳で聞く昔話は、本で読むのとは一味違ったおもしろさがあります。子どもから大人まで楽しめる内容となっており、皆さんぜひおこし下さい。



特別企画展

2003.2.1～3.16

「霧島山の自然」



宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島山は、大小23の火山から成り立っています。最高峰は韓国岳で、高千穂峰、新燃岳と続きます。不動池や大浪池、御池など火口湖もたくさんあります。また、年間に5,000mmもの降水量を誇る霧島山は、照葉樹林、針葉樹林、落葉樹林など豊かな森林や火山性の草原、湿原などを有し、動物や植物の宝庫となっています。霧島の名を付けられた生物も少なくありません。植物では、ミヤマキリシマやキリシマミズキ、キリシマヒゴタイなどがあります。動物では蝶のキリシマミドリシジミが有名です。ここは、1934（昭和9）年に、霧島屋久国立公園に指定されています。



ミヤマキリシマ



キリシマミドリシジミ

博物館からのお知らせ

アドベンチャーラリー

常設展示室内の体験コーナーを紹介し、いろいろな体験ができるプログラムです。平日・土・日にかかわらず入館者は随時参加できます。昆虫を探したり、オケを組み立てたり、メンコをしたり、楽しい体験が待っています。ぜひ挑戦してください。

博物館ホームページをご存じですか

博物館ホームページでは、利用案内をはじめ常設展示の紹介、特別展示会や講座の案内、付属施設について等々、情報満載です。アドレスはwww.pref.miyazaki/museum/です。「宮崎県総合博物館」でも検索できます。アクセスお待ちしています。

臨時休館のお知らせ

展示資料の補修や機器点検のために下記の期間が臨時休館となります。

臨時休館日：平成14年12月10日（火）～12月20日（金）

「みやざき文化フェスティバル」

総合博物館、県立美術館、県立図書館、埋蔵文化財センター、県立芸術劇場の5つの施設が合同で、11月3・4日に「みやざき文化フェスティバル」を開催します。本館では下記の行事を行います。ぜひ、おこしください。

●講演会

期日 11月3日（日）

演題 古代日本と文字

講師 草川 南 先生（国立歴史民俗博物館副館長）

入場料 無料

※10月26日～12月8日に開催される特別展「古代日本 文字のある風景」に関連して開催されます。

●博物館クイズラリー

期日 11月3日（日）・4日（月）

文化フェスティバル用の問題を用意して実施します。